

平成 23 年 10 月 31 日

東京ガス株式会社

2012 年 3 月期 第 2 四半期決算説明会

主な Q & A

Q 1 : オール電化の足元の状況の評価について

A 1 : 既存需要家のオール電化へのシフトは、前年度と比べると 4 割程度の水準まで落ち込んでいる。現在電力会社による営業はストップしているが、オール電化の部材供給は復旧しており、その他のプレーヤーによる電化営業は足元で戻りつつある。

Q 2 : 業務用ガス需要の年度見通しの考え方について

A 2 : 震災後の電力不足を受けて、業務用需要家は、空調設定温度の変更、稼働時間の短縮など省エネ行動を取る傾向が続いている。この傾向がこの冬も継続するものとの前提で今回の見通しを作成している。

Q 3 : この冬の電力不足に対する発電用需要のさらなる増加可能性について

A 3 : 電力会社からの要請があれば、当社グループの発電会社である扇島パワーは技術的に可能な範囲で最大限フル稼働により電力を供給し、電力不足の解消に貢献するつもりである。

Q 4 : 「総分配性向 6 割」に従った場合、今回の当期純利益見通し (320 億円) を前提とすると、現在の 9 円配当を維持できないことになるが、株主還元をどのように考えているか?

A 4 : 現時点で利益処分について断言することはできないが、今回結果として、当期純利益が見通しに沿った水準になった場合でも、減配はしない方針だ。但し、この場合には、当期純利益に占める還元性向は 7 割を超える (72.9%) ことになり、自社株取得はできないこととなる。

Q 5 : 11 月 15 日に発表するという長期ビジョンについて、どのような内容になりそうか?

A 5 : 詳細はその際にご説明することとしたい。震災を契機として日本のエネルギー政策が大きな転換点を迎えており、当社グループとして事業環境を長期に見通す中で、中長期的な経営方針を明らかにする必要がある、策定を進めている。

以 上